

P-A-4

術後悪性呼吸器疾患患者の退院前後の身体活動量の変化と心理状態

The change of physical activity and psychological adjustment in patients with malignant respiratory disease

○平井 啓^{1),2)}, 荒井 弘和³⁾, 湯川沙世子¹⁾, 井倉 技¹⁾,
澤端 章好⁴⁾, 奥村明之進⁵⁾, 伊藤 壽記¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座, 2) 同コミュニケーションデザイン・センター,
3) 大阪人間科学大学, 4) 獨協医科大学胸部外科, 5) 大阪大学大学院医学系研究科呼吸器外科

This study attempted to explore the change of physical activity and psychological adjustment of malignant respiratory disease patients. The study revealed the significant change of physical activity between pre-discharge and post-discharge, and significant relationship between psychological adjustment and physical activity.

【目的】

術後の肺癌を中心とする悪性呼吸器疾患患者を対象として、術後入院の期間、退院直後の期間、退院後約3週間後の期間の身体活動量の変化と心理状態との関連を実証的に検討した。

【方法】

本研究は前向き観察研究である。対象者は、退院前から研究に参加することができた術後の肺癌・悪性呼吸器疾患患者7名であった。対象者は、同意書に署名し、約4週間の研究に参加した。研究開始時と開始から4週間後の終了時に質問紙への回答を求めた。身体活動は、uniaxial 加速度計（ライフコーダーEX®, スズケン社製）を用いて記録された。心理状態の指標は、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) 日本語版を用いた。

【結果】

対象者の平均年齢は、 65.0 ± 6.7 歳、男性2名、女性5名、平均BMIは、 22.7 ± 2.8 であった。術後入院中で質問紙調査から5日間の平均歩数は 3531.8 ± 1236.9 歩、退院直後5日間の平均歩数は 1963.9 ± 915.4 歩、退院後外来での質問紙調査直前の5日間の平均歩数は 4337.5 ± 1791.2 歩であった。繰り返し測度の分散分析の結果、入院中から退院直後にかけて身体活動が有意に低下し ($P < 0.05$)、さらに他院直後から退院後約3週間の時点にかけて有意に増加する ($P < 0.01$) ことが明らかになった。初回質問紙調査時点で、HADSの総得点が適応障害のカットオフ値11点以上 ($N = 4$) と以下 ($N = 3$) について身体活動量の違いを一元配置分散分析で検討したところ、入院中の5日間の平均歩数が適応障害群で 2521.1 ± 585.6 歩、正常群で 4289.8 ± 1021.7 歩で有意に適応障害群の方が身体活動量が少なかった ($P < 0.05$)。その他の地点での有意な身体活動の違いは見られなかった。

【結論】

術後の肺癌を中心とする悪性呼吸器疾患患者は、退院により一時的に身体活動量が低下するが、期間が経つことにより身体活動量が高まることが明らかになった。さらに入院中の心理状態が悪い患者は入院中の身体活動量が少ないことが明らかになった。